

I. 幕屋において、青色と紫色と緋色の撚糸、また撚り合わせた細糸の亜麻布から成る垂れ幕は、金で覆われたアカシア材の四本の柱にかけられていました：出26:33 その垂れ幕を留め金の下にかけ、その垂れ幕の内側に、証しの箱を運び入れなければならない。その垂れ幕は、あなたがたのために聖所と至聖所を分離する。

A. 垂れ幕は、キリストの肉体を表徴し、聖所を至聖所から分離し、また証しの箱を覆っていました：

ヘブル10:20 それは、彼が私たちのために、彼の肉体である幕を通して、一つの新しい生きた道を開設してくださったからです。1. これは人の肉のゆえの、神と墮落した人の分離を表徴します。

2. この垂れ幕は、キリストの十字架を通して裂かれました。これが表徴するのは、罪の肉が十字架上のキリストの死を通して十字架につけられ、新しい生きた道を開いて、罪深い人が至聖所の中で、なだめのおおいとしてのキリストの中で神と接触するということです。

B. 柱は枳板のように、金で覆われたアカシア材で作られており、キリストの贖いを表徴する銀の台座の上に立っていました：1. 柱は信者たちを表徴し、彼らは強く、キリストの肉体と成ることと十字架につけられたことの証しを担います。2. 垂れ幕が柱に結び付けられていることは、垂れ幕としてのキリストと、柱である信者たちが結合されて一になっていることを暗示します。3. 神の住まいの中の柱である信者は、もはや肉の中に生きず、彼らの肉の幕が裂かれたことの証しを担います。すなわち、彼ら自身が終わらされ、彼らの肉がキリストと共に十字架につけられたことの証しを担います。

4. 柱の上の裂かれた垂れ幕は入り口となって、神の民は至聖所に入り、神の満ち満ちた享受を持ちます。

II. とばりは、青色と紫色と緋色の撚り糸、また撚り合わせた細糸の亜麻布で作られました。またとばりのために、五本の柱が金で覆われたアカシア材で作られました：

A. とばりは、完全な人性におけるキリストを表徴します。彼はすべての消極的な人や事物を神の住まいの中に入らせないようにする方です。また彼は神の裁きの下で私たちの罪のために死んだ方でもあり、それは私たちが神によって赦され、彼の住まいの聖所の中へと入って、キリストにある神のすべての豊富を享受し始めるためです。

B. 幕屋の中のとばりと垂れ幕は、キリストのすべてを含む死の二つの面を表徴します：1. とばりが示しているのは、キリストが私たちの罪のために死んで、それによって私たちの罪が赦され、私たちが神によって義とされることができるようになるということです。2. 垂れ幕が示しているのは、キリストが私たち罪人のために死んで、それによって私たちの肉、私たちの墮落した性質が裂かれ、十字架につけられて、私たちが至聖所へと入って、神を極みまで享受することができるようになるということです。 1・月

C. とぼりは天幕の入り口のためでした：出26:36 また、あなたは天幕の入り口のために、青色と紫色と緋色の撚り糸、また撚り合わせた細糸の亜麻布で、刺繍(ししゅう)職人のわざによってとぼりを作らなければならない。1. 出エジプト記の幕屋は、入ることができるものでした。2. 神は肉体と成ることによって、人と成っただけでなく、入ることができる幕屋ともなりました。ヨハネ1:14 そして言は肉体と成って、私たちの間に幕屋を張られた。それは恵みと実際に満ちていた。私たちは彼の栄光を見た。それは、父からのひとり子としての栄光であった。3. 旧約で、祭司は幕屋の中へと入ることができました。今日キリストにあるすべての信者は祭司であり、神の中へと入り、彼の中に住むことができます。4. 肉体と成った神は、私たちの住まい、私たちのホームとなりました。それは享受の場所です。

D. 垂れ幕に結び付けられていた四本の柱のように、とぼりに結び付けられていた五本の柱は、肉体と成って十字架につけられたキリストと結合されて一となっている比較的強い信者たちを表徴しています：1. 幕屋の入り口のこれらの柱は伝道者であり、彼らはすべての人に向かって、キリストが彼らの罪のために死なれたことを宣言します。2. 幕屋の内側の柱は、さらに深い方法でキリストを経験している人です。彼らは日ごとに自分自身を裂かれた垂れ幕に結び付け、すなわち肉体において終わらされたキリストに結び付け、自分がキリストと共に十字架につけられたという証しを担っています。3. この二種類の柱は入り口を提供し、罪人が救われて神の住まいの中へと入り、それから終わらされるようにします。それによって彼らは神の至聖所へと入って、神の豊満において神ご自身を享受することができます。

E. とぼりを支える五本の柱の間には、幕屋の中へと入る四つの入り口がありました。垂れ幕を支える四本の柱の間には、至聖所の中へと入る三つの入り口がありました：1. とぼりに四つの入り口があるという事実が示すのは、神の住まいが、地の四隅からのすべての人に開かれているということです。2. 垂れ幕にある三つの入り口が示すのは、三一の神ご自身が入り口であって、彼の贖われた民が彼の住まいの中に入るためだけでなく、彼ご自身の中に入るためでもあるということです。

エペソ2:18 それは、私たち両者がキリストを通して、一つ霊の中で、御父へと近づくことができるためです。

Ⅲ. とぼりと垂れ幕は、パウロがⅡコリント第5章18節から21節で語っている和解の二つの面と関係があります：Ⅱコリント5:20 ですから、私たちはキリストのために大使であり、いわば神が私たちを通して、あなたがたに懇請しておられるのです。私たちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神に和解させられなさい。

A. パウロは神によって権威を授けられて、神を代行し、和解の務めを遂行しました。

Ⅱコリント5:18 これらすべてのものは、神から出ています。彼はキリストを通して、私たちをご自身に和解させ、その和解の務めを、私たちに与えてくださいました。20 ですから、私たちはキリストのために大使であり、いわば神が私たちを通して、あなたがたに懇請しておられるのです。私たちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神に和解させられなさい。

20節「和解」FN: 信者たちは、すでに神に和解させられていますが、さらに一層、神に和解するのです。これは、人が完全に神に和解させられるのに、二つの段階が必要であることを、はっきりと示しています。第一の段階は、罪人が罪から神に和解させられることです。このために、キリストは私たちの罪のために死なれました。それは、私たちの罪が神によって赦されるためです。これは、キリストの死の客観的な面です。この面では、彼は私たちの罪を、十字架上で担ってくださいました。そして、それらの罪は、私たちのために、彼の上で神によって裁かれました。第二の段階は、天然の命に生きている信者たちが、肉から神に和解させられることです。このために、キリストは、私たち、人のために死なれました。それは私たちが、復活の命の中で、彼に生きるためです。これはキリストの死の主観的な面です。この面では、彼は私たちに代わって罪とされ、神に裁かれ、殺されました。それは私たちが、キリストにあって神の義となるためです。彼の死の二つの面によって、彼は神の選びの民を、完全に神に和解させられました。和解のこの二つの段階は、幕屋の二つの幕によって、はっきりと描写されています。第一の幕は、「とばり」と呼ばれています。罪人は、なだめの血による和解を通して、神にもたらされました。彼はこのとばりを通して、聖所に入っていました。これは和解の第一段階を予表します。しかし第二の幕が、至聖所の中におられる神から、依然として罪人を隔てていました。罪人が、至聖所の中の神にもたらされるためには、この幕が引き裂かれる必要がありました。これは和解の第二段階です。コリントの信者たちは、第一の幕を通過して、聖所に入り、神に和解させられました。ところが彼らは、依然として肉の中に生きていました。ですから彼らは、すでに裂かれている第二の幕を通過し、至聖所に入って、彼らの霊の中で、神と共に生きる必要がありました。この手紙の目標は、彼らを至聖所にもたらして、彼らを霊の中、すなわち至聖所の中にいる人とならせることです。「神に和解しなさい」と使徒が言ったのは、このような意味です。これが、キリストの中で完全に成長した人をささげることでした。

B. 和解の務めは、罪人を神へと連れ戻すことだけでなく、それ以上に信者たちを絶対的に神の中へともたらすことです。

C. 私たちが完全に主と一になり、完全に主の中におり、主に完全に私たちの中にいていただくようになるまで、私たちは和解の務めを必要とします。

D. 私たちが完全に神へと和解させられるためには、二つの段階が必要となります:

1. IIコリント第5章19節では、神に和解させられるのはこの世ですが、20節では、それは信者たちです。彼らはすでに神に和解させられています、さらに一層、神に和解させられるべきです。

IIコリント5:19 すなわち、神はキリストにあって、世の人をご自身に和解させ、彼らに対して彼らの違犯を数えないで、和解の言を私たちに託されたのです。

2. 和解の第一段階は、罪人を罪から神へと和解させることです:

a. この目的のために、キリストは私たちの罪のために死にました。それは、私たちの罪が神によって赦されるためです。

Iコリント15:3 私が受けて、あなたがたにも伝えたことは、まず第一に、キリストが聖書にしたがって、私たちの罪のために死なれたこと、

ルカ24:46 イエスは彼らに言われた、「こう書かれている、『キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中から復活する。47 そして、罪の赦しを得させる悔い改めが、彼の御名の中で、エルサレムから始まって、すべての諸国民に宣べ伝えられる』。

b. もともと、私たちは罪人であっただけでなく、神の敵でもありました。キリストの贖う死を通して、神は罪人である私たちを義とし、彼の敵である私たちを彼ご自身に和解させました。

ローマ5:10 というのは、私たちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

コロサイ1:21 かつてあなたがたは神から離れていて、悪い行ないのために、あなたがたの思いの中で敵であったのですが、22 今や彼は、ご自身の肉の体において、死を通して和解させてくださいました。それは、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、彼の御前にささげるためでした。

c. これはキリストの死の客観的な面です。この面において、彼は十字架上で私たちの罪を担い、私たちに代わって神の裁きを受けました。

Iペテロ2:24 私たちが罪に死んで、義に生きるために、彼は私たちの罪を、ご自身の体において、木の上で担われました。その方の打たれた傷によって、あなたがたはいやされたのです。

ヘブル9:28 キリストも、多くの人の罪を担うために、ただ一度ささげられましたが、彼を熱心に待ち望む者たちに、二度目に、罪とは関係なく現れて、救いを与えられるのです。

ローマ8:3 律法が肉のゆえに弱くて、なし得なかったので、神は、ご自身の御子を罪の肉の形で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。

3. 和解の第二段階は、天然の命の中で生きている信者たちを、肉から神へと和解させることです：
- この目的のために、キリストは私たちという「人」に代わって死にました。それは、私たちが復活の命の中で彼に生きるためです。

Ⅱコリント5:14 なぜなら、キリストの愛が私たちに押し迫っているからです。そこでこう判断しました。ひとりの方がすべての人のために死なれたからには、すべての人が死んだのです。

15 そして、彼がすべてのために死なれたのは、生きている者が、もはや自分自身ではなく、彼らのために死んで復活させられた方に生きるためです。

- これはキリストの死の主観的な面です。この面において、彼は私たちに代わって罪とさせられ、神の裁きを受け、神によって除き去られ、私たちが彼の中で神の義となるようにしました。
- キリストの死の客観的な面において、彼は私たちの罪を担いました。主観的な面において、彼は罪となりました。

I ペテロ2:24 私たちが罪に死んで、義に生きるために、彼は私たちの罪を、ご自身の体において、木の上で担われました。その方の打たれた傷によって、あなたがたはいやされたのです。

Ⅱコリント5:21 神は罪を知らなかった方を、私たちに代わって罪とされました。それは、私たちが彼の中で神の義となるためです。

ローマ人への手紙第8章3節によれば、神は肉において罪を罪定めされました。これは、彼が私たちに罪定めされたことを意味します。彼は天然の人を罪定めされました。さらに、垂れ幕、天然の人、天然の命、肉は、キリストの死の主観的な面を通して裂かれました。罪が罪定めされた時、また幕が裂かれた時、私たちは終わらされました。その結果、第二の幕は取り除かれ、私たちは完全に神に和解させられます。ですから、私たちは聖所にとどまるべきではなく、至聖所の中へと前進すべきです。さらに、私たちはもはや肉にしたがって互いに知り合うべきではなく、霊にしたがって知り合うべきです。…神が地上で持つことを願っている人は、単に義なる人だけではありません。神が欲しておられるのは、神、悪魔、天使たち、悪鬼どもの目に、神の義である人です。神の御前に義とされるのは一つの事であり、神の義であるのはもう一つの事です。神の義となることは、キリストの中での三一の神の最高の享受です。アダムの中で、私たちはあまりにも低く墮落し、罪となりました。私たちは神の御前に罪深いだけでなく、罪そのものとなりました。しかし今やキリストの中で、神に徹底的に連れ戻されて、私たちは彼の中で神の義となるほどまで、キリストを享受することができるのです。何という救いでしょう！何という和解でしょう！この享受を持つことは、神の救いの高嶺に在ること、私たちの聖なるシオンの高嶺に在ることです。

d. 私たちは依然として神から分離されており、神と完全に一になっておらず、完全に彼と調和されていないので、私たちは和解の第二段階を必要とします。

e. キリストの死の主観的な面は、私たちの状況と私たちの天然の命に適用される必要があります：
ローマ6:6 私たちは次のことを知っています。私たちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、私たちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。
ローマ8:13 なぜなら、もし肉にしたがって生きるなら、あなたがたは死ななければならないからです。しかし、その霊によって体の行ないを死に渡すなら、あなたがたは生きています。
ガラテヤ5:24 しかし、キリスト・イエスのものである人たちは、肉をその情と欲と共に十字架につけてしまったのです。

マタイ16:24 それから、イエスは弟子たちに言われた、「だれでも私について来たいなら、自分を否み、自分の十字架を負い、私に従って来なさい。

(1)このようにキリストの主観的な死を適用することによって、私たちの天然の命は十字架につけられ、私たちが神の内なる臨在から分離する垂れ幕は裂かれます。

(2)私たちが完全に神に和解させられるために、御父は私たちの天然の命を暴露し、私たちの真の状況を私たちに明らかにします：

Iヨハネ1:5 さて、私たちが彼から聞いて、あなたがたに伝える知らせはこれです。すなわち、神は光であって、神の中には少しの暗やみもありません。1しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩くなら、私たちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪から私たちを清めます。

(a)その結果、私たちは自分の天然の存在を罪定めし、主観的に十字架を適用します。このようにキリストの死を適用することによって、私たちの天然の命は十字架につけられます。

(b)私たちの天然の人が除き去られるとき、私たちは和解の第二段階を経験します。この段階において、私たちの天然の人の垂れ幕は裂かれて、私たちは神の臨在の中を生きるようになります。

(3)和解の第二段階は、一度で永遠に起こるものではなく、継続的に起こるものです。

4. キリストの死のこの二つの面によって、キリストは神の選ばれた人を完全に神に和解させます。

ローマ5:10 というのは、私たちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。

経験(結婚生活編):

- ① ガラテヤ2:20 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

幕屋の内側の柱は、さらに深い方法でキリストを経験している人です。彼らは日ごとに自分自身を裂かれた垂れ幕に結び付け、すなわち肉体において終わらされたキリストに結び付け、自分がキリストと共に十字架につけられたという証しを担っています。

夫婦は交わりにより、互いに微調整され、バランスの悪さから救われます。多くの問題は、微調整することで解決することができます。しかし、微調整されるために、あなたはキリストと共に十字架につけられる十字架の主観的な面を経験する必要があります。夫婦は互いに異なった生活背景を持っています。このことは、互いを補完するために、必要なことです。ところが天然の命にとどまっていると、本来祝福となるはずのこの違いが大きな問題になります。この世では、性格の違いが離婚の主な原因となっています。あなたが天然の命に従って生きるのではなく、キリストに内側で生きていただき、微調整を受け入れ、成長するために、以下の4つのことを実行してください。i) 毎朝、聖書の御言葉を祈り読みし、キリストを享受する。ii) 夫婦の会話においてキリストと共に十字架につけられ、自分の意見を固執する頑固さから救われる。iii) 自分を生きるのではなく、キリストに内側で生きていただき、キリストを生き、キリストを大きく表現する。iv) 配偶者のために祈る。あなたが、これら4つのことを少しずつ経験するなら、あなたの配偶者が未信者あるいは新人であっても、あなたを通して表現されたキリストによって、彼らは徐々にキリストに引き寄せられ、あなたと同じように主と召会を愛するようになります。

- ② Iヨハネ1:7 しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩くなら、私たちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪から私たちを清めます。

私たちが完全に神に和解させられるために、御父は私たちの天然の命を暴露し、私たちの真の状況を私たちに明らかにします。和解の第二段階は、一度で永遠に起こるものではなく、継続的に起こるものです。

日常生活(結婚生活やビジネス・ライフ等)で、主との親密な交わりを通して、主はあなたの天然の命に従った生活を暴露します。あなたは暴露されたら、主の恵みに頼り、言い訳を言わず、十字架を主観的に経験してください。あなたは暴露され、十字架を主観的に経験すればするほど、和解の第二段階を経験し、さらに主の豊富を享受することができます。特に、結婚生活で、このことを経験できますように。

458 十字架の道—損失によって益を得る

- 1 オリブしぼられて、あぶらとなる;ぶどうもつぶされ、良きさけとなる;
こうりょう焼かれて、かおりはなつ;さればわれいかにくだかるべきや?
(復)打げきみな、えきとなし、取りしものに代え、主はご自身あとう。
- 2 主よ、こころの弦を かきならせや、主のしらべあれば、すべて耐え得る;
たおれるたびごと、ながあい知る、なれちかくませば、損しつおそれじ。
- 3 あいのたい処をば、つらくかんじ、自我に捕らわれし、われ、恥じるのみ、
主よ、わがおもいを、かえりみずに、主のよろこぶまま、御むね成しませ。
- 4 主とわれの苦らく、合わざるとき、主よ、よろこびませ、われくびき負わん;
主のよろこび、栄光、ねがうわれは、十字架とたい価を、いかでこぼむや。
- 5 賛美せよ、賛美せよ、賛美はあまし、あまさいや増す、なみだの賛美に;
主わがたからゆえ、ただいのりせん、われおとろえゆき、主いよよ増せと。

626

- 1 Olives that have known no pressure No oil can bestow;
If the grapes escape the winepress,
Cheering wine can never flow;
Spikenard only through the crushing, Fragrance can diffuse.
Shall I then, Lord, shrink from suff'ring
Which Thy love for me would choose?
Each blow I suffer Is true gain to me.
In the place of what Thou takest Thou dost give Thyself to me.
- 2 Do my heart-strings need Thy stretching, Songs divine to prove?
Do I need for sweetest music Cruel treatment of Thy love?
Lord, I fear no deprivation If it draws to Thee;
I would yield in full surrender All Thy heart of love to see.
Each blow I suffer Is true gain to me.
In the place of what Thou takest Thou dost give Thyself to me.
- 3 I'm ashamed, my Lord, for seeking Self to guard away;
Though Thy love has done its stripping,
Yet I've been compelled this way.
Lord, according to Thy pleasure Fully work on me;
Heeding not my human feelings, Only do what pleases Thee.
Each blow I suffer Is true gain to me.
In the place of what Thou takest Thou dost give Thyself to me.

- 1 你若不压橄榄成渣，它就不能成油;
你若不投葡萄入榨，它就不能变成酒;
你若不炼哪哒成膏，它就不流芬芳;
主，我这人是否也要受你许可的创伤?
(副)每次的打击，都是真利益，
如果你收去的东西，你以自己来代替。
- 2 你是否要鼓我心弦，发出你的音乐?
是否要使音乐甘甜，须有你爱来苦虐?
是否当我下倒之时，才能识“爱”的心?
我是不怕任何损失，若你让我来相亲。
- 3 主，我惭愧，因我感觉总是保留自己，
虽我也曾受你雕刻，我却感觉受强逼!
主，你能否照你喜乐，没有顾忌去行，
不顾我的感觉如何，只是要求你欢欣?
- 4 如果你我所有苦乐不能完全相同，
要你喜乐，须我负轭，我就愿意多苦痛;
主，我全心要你所要，不惜任何代价;
你若喜悦，并得荣耀，我背任何十字架。
- 5 我要赞美，再要赞美，赞美何等甘甜;
虽我边赞美边流泪，甘甜比前更加添;
能有什么比你更好?比你喜悦可宝?
主，我只有一个祷告：你能加增，我减少。

